

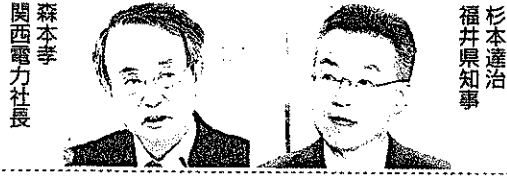
# 関電、要求守れず玉虫色案

## 電力逼迫、遅れた面会

関西電力は12日、使用済み核燃料の中間貯蔵施設の候補地確定について、2023年に延期すると福井県に伝えた。一方で国の後押しを踏まえ、青森県むつ市にある中間貯蔵施設を大手電力各社と共同利用する案に加わる意向を示した。県側が要求した「20年内」の提示が守れず、むつ市側の反発や電力需給の逼迫もあるなか、玉虫色といえる案で乗り切る事態となった。

▼社会面参照  
関電の森本孝社長は12日、福井県の杉本達治知事との面会で「むつ市施設

- 関西電力の中間貯蔵施設をめぐる経緯** ※肩書は当時
- 1997年4月 栗田幸雄・福井県知事が電力会社に県外に中間貯蔵施設をつくるよう要請
  - 98年7月 秋山喜久社長が県外に建設する意向を表明
  - 2004年3月 福井県小浜市議会が誘致推進の議案を可決
  - 6月 同県の山口治太郎・美浜町長が、誘致を表明
  - 17年11月 岩根茂樹社長が18年末までに県外の候補地を示すと表明
  - 18年1月 青森県むつ市に東京電力ホールディングスと日本原子力発電が建設した中間貯蔵施設を、関電が両社と共同利用する方針との一部報道。宮下宗一郎・むつ市長が反発
  - 12月 期限内に候補地が示せず、岩根社長が西川一誠・福井県知事に謝罪。「20年を念頭」に期限を延期
  - 19年9月 関電の金品受領問題が発覚
  - 20年10月 森本孝社長が杉本達治・福井県知事と面会。杉本知事が年内の県外候補地提示を念押し



森本孝  
関西電力社長

杉本達治  
福井県知事

12月 大手電力10社でつくる電気事業連合会が、むつ市にある中間貯蔵施設の共同利用案を検討する方針を表明

21年2月 森本社長が杉本知事と面会、むつ市への関心を伝える

RFSの中間貯蔵施設

の共同利用案に「積極的に参画したい」と話し、初めて中間貯蔵施設の候補地にむつ市を検討していることを伝えた。

昨年12月には電気事業連合会(電事連)が、東京電力ホールディングスと日本原子力発電が運営するむつ市の中間貯蔵施設を共同利用する案を公表。森本社長は同日18日、記者会見で「共同利用の検討に高い関心がある。積極的に参画したい」と述べ、杉本知事にも同様の報告をしたとしていた。

ただ、むつ市の宮下宗一郎市長は「共用化ありきの議論はできない」と話するなど、否定的な考えを提示。むつ市側の態度は硬化したままだった。このため同月下旬には、本来行くはずの森本社長ではなく松村孝夫副社長が松本宏副知事を訪れ、候補地を示せないことを謝罪していた。

今回の社長の面会については、関電内で当初、「1月中旬ごろ」(幹部)を想定。関電がむつ市を候補地として挙げられるよう、資源エネルギー庁もむつ市との折衝に乗り出したが、思うように動かなかつたとみられる。加えて年末から年明けは、寒波で全国的に電力の供給に余裕がなくなる需給逼迫が続いた。関電は原発が全て稼働していなかったこともあり、電力確保に追われた。「(福井訪問は)それどころじゃなかった」(幹部)と明かす。

今回の面会で、関電の高浜原発1、2号機(福井県高浜町)と美浜原発3号機(同県美浜町)の再稼働に向け、県側の手続きが進み出した形だ。

だが、再稼働には最終的に知事の同意が必要。知事は当初、20年末までの候補地提示を強調しており、いまだ具体的な選定ができていないなかでの動きには厳しい見方も出そうだ。関電は足元では他電力との競争が激しく、中期経営計画の見直しを検討中だ。経営改善への道筋を示すには、老朽原発の再稼働を事業計画に盛り込めるかが左右する。森本社長はこの日、計画に関して「議論の真つ最中だ」として明言を避けた。(橋本拓樹)

◇  
関電は12日、大飯原発4号機(福井県おおい町)の営業運転が本格的に再開したと発表した。1月17日に発電を再開し、今月12日に定期検査を全て終えた。

# 知事「前提クリア」

杉本知事は国と関電の説明を聞いた後、「議論に入る前提がクリアされた」と報道陣に述べた。16日開会の県議会で、老朽原発再稼働の是非についての議論を促す考えだ。

関電が福井県内に持つ3原発の使用済み核燃料プールの貯蔵割合は6、8割（昨年9月末時点）となっており、県は使用済み核燃料の県外への搬出を求めて

きた。この日、関電に加え、国側も、搬出先の「計画地点」の一つとして青森県むつ市という具体名を示したことで、杉本知事は「十分かどうかはともかく、議論を進めていいと考えた」と報道陣に述べた。

高浜1、2号機は地元・高浜町の町長、町議会がすでに同意を表明。美浜3号機は美浜町議会が同意し、町長も12日、週明けの15日

に同意を表明する意向を報道陣に示した。残るは杉本知事と県議会の判断になり、再稼働への手続きが加速することになる。

昨年12月、電車連によるむつ市の施設の共同利用案が浮上した際には、県幹部の1人は「むつしかないだろう」と取材に対して話していた。だが、むつ市の宮下市長は同月、関電の使用済み核燃料について「受け

入れる余地はない」と強く反発。こうした状況に、美浜町議長が同月、美浜原発の構内に使用済み核燃料を保管する案を報道陣に提示する事態まで起きていた。

再稼働が近く実現したとしても、高浜原発ではテロ対策施設の設置期限が6月に設定されており、施設が完成しなければ原発は再び停止することになる。

(室矢英樹、堀川敬部)